

毎日歌壇

伊藤 一彦 選

ヒーローは自分の中にヒーローを育ててきつと頼りにしてる 駒ヶ根市 市山 利也
 △評▽華やかなヒーローがその存在を維持するための秘訣は「自分の中にヒーローを育て」ることだという。作者の眼識だ。

真剣に褒めれば褒めるほど君が離れていくとわかっていても 川崎市 ななつ
 △評▽「君」は虚像の自分を愛されていると思うのか。恋の難しさを感じさせる。

ひこげえの桜がいちばんきれいだな下を見ながら生きてきました 東京 藤沢 静二
 バス乗り場三番線はどこですか 黒のスーツの春の新人 岡山市 佐藤紘太郎

温もりを床に残してわたくしは体育館の歴史のひとり 宮崎 門田 藍子
 空からは雨と星だけ降ればいい無数のいのちの下にある 群馬 斉藤 末廣

日が沈み登りゆくこと君とわかち風吹く春を歩きたかった 福岡市 山下 朝音
 属国と同盟国は違いますでこのころをしっかり頼む 塩釜市 高橋 永喜

優しく絵本に出てくるばあちゃん私の中にはあないばあちゃん 鹿嶋市 大熊佳世子
 具は入れず少しの塩で味付けのおにぎりの味 母の勝負味 下関市 富本 均

米川千嘉子 選

「耳はまだ聞こえていきます」と告げられて無へと近づく父を畏れる 宇治市 清原 茂樹
 △評▽命の働きが一つ一つ失われて聴力だけが残っている。生死の境にある父の存在感に激しく迫って心に残る下句だ。

両側から抱きついてくる子もらは抱へきれない花束の重さ 大津市 碧乃 そら
 △評▽明るくいとおいしい花束たちが母に寄せる愛や信頼に応えきれぬのか、と。

宴会の大皿料理取り分けるように税収分けてトーキー 千葉市 深海 泰史
 ぶりぶり文巨の厚き皮むけば皺める父の手の蹼れぬ 大阪市 森川 慶子

声高にルッキズム反対叫んでは真直ぐに伸びた野菜を求む 福岡市 西田 浩之
 大声で元気をつくる介護職入居者様のゆるりゆるりに 四街道市 石原 典武

海の青空のあをなる宮崎を新幹線は見たことがない 宮崎 門田 祥子
 高校なき離島を登ちゆく十五歳森にいくつも美箱を掛けて 埼玉 酒井 忠正

微笑みを外してソファに凭れつつ早めに抜けた雑談を憂う 東京 岡田さやか
 弁当が五百円から五十円あがる危機感あがる 危機感 春日市 伊藤 亮

加藤 治郎 選

ドップラー効果で街を過ぎていくバニラバナニラバニラバナニラ 札幌市 人子 一人
 △評▽街を走行する求人者のバニラカーである。わい雑な風景だ。ドップラー効果で遠ざかるど低く聞こえる。記号が面白い。

まっ先に手帳を捨てるさよならは春のセロリを噛むように言う 垂水市 岩元 秀人
 △評▽別離の歌だ。デートのことが記された手帳だろう。下句の比喩がさえている。

万華鏡のきらめき作る成分がのりたまだとは知らなかったよ 長岡市 三月 とあ
 死ぬ前にオクラホマミキサー踊って 笛吹くきみの風車村にて 川崎市 新井 将

夢は住宅展示場だったこんなにも独り年をとったのに 山形市 新道百合子
 谷山浩子の「ラ・ルウ」想う 君の夢見で本当に泣くということ 岐阜市 山上 秋恵

相槌が下手な私の沈黙が川のきらきらとして流れる 大津市 世田 夏雪
 花瓶割れスリッパ履かねばならぬ我豚バラ鍋が待つ居るのに 岩倉市 石川 順一

タエさんをどう運べばいい介護士の我は空襲警報鳴る中 広島市 堀 眞希
 世間には濁流ばかり君は手をのばして底にふれようとする 守口市 寺前 晴

水原 紫苑 選

火の鳥はもう来ないからまな板で光と色を混ぜよう切る 安城市 唐澤 うに
 △評▽火の鳥を一度は見たあなたもあなたも。誰もがこうしてまな板に向かい、光と色を切る春の夜。

残酷な、否、やわらかな閃光のほりへ永き産道をゆく 盛岡市 立花 塵
 △評▽永い産道をゆくるしみと、光への期待と。一生がそうかもしれない。

朝淹れても紅茶は夕焼色をして感傷的な一日となる 甲府市 村田 一広
 夕立の音が響いているうちは私のおおよそは舟である 枚方市 久保 哲也

誤解したままのあらゆる煙めきがあなたを運ぶ蜜蜂となる 名古屋 市 よだか
 不可思議に笑っていたね俯っていたかったのに花だったよね 岡山市 松井 度

電車行き交はして地上なり 花はひるのすがたをして現る 東京 吉岡 耕大
 デスに春の星空 倉敷市 中路 修平

国は嫌い世界は好きで戦争はしたくないただ恋がしたい 熊本市 夏風かをる
 喝采を最初に送る人がいる 一切れの虹を胸に差し込む 東京 留留留

投稿規定

はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051(住所不要)毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、○○先生(希望選者名)係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム

(<https://mainichi.jp/kadan-haidan/>)でも受け付けています。

3月17日の毎日俳壇「水凧のなかをかすかな水の音」は、類似の作品が過去にあるため入選を取り消します。



こちらから投稿できます